新板
倫入

御定能毒基本

四之巻

へ遠13
1.881
4

勧進能番付櫻

四之巻

目録

倶楽部
湯嶋

部門第
第一 写雪杉くを目茶の矢倉
おるべくの町と書といふ句やうきやう
ものうとくど取り扱れ無い不

第二　一　ひさかたの月のかつらの花をみる　貞徳

第二　家たの梅　梅

第ごろうで捨れない賞ざかひ
思ふれば山桜の目ろ人ぬ欲ら

一　四季折くいめのまへのいろ香

浮世の桜小はるひ来てく雲をいろとさぐめん花の上極所
のかくれに来といろ若かり。我大名ふせれ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
只ちさすれのしくれだろうちとしてこんかいろ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

すべてうとうさいかさくらふのう。一人乗子のかくてまたしてなふ乃
ゆうちゃわがそのもとの看板。多くは寺の流れなれば多ひ方よりの仏名。
三宝尊を掲めて夢を掲ゆるの彩つぎふ。友仲へ強よ本町おちく
稼業なるこんのかとお傷屋。伊賀屋いとは流西四へ流れてを。西国乃
町人のひとをとは拝殿。名も須不流書えとわくさ。なりの医者
ぶんぷ伊が賀屋の宵長。一りとざろとりまるぶろ。ろ紙子の肌わら
よくこんばきめ。芝一繁乳のあい人方。今の世界まいものとりのと鬱屋
ふうの私ふ。仲乃の高人ともてこしがりて。手形ちうま医者よ仕事ふ
駄義教りわそものむ乳よめてのふれりちぜし付くふ美男せとまのとろ
ゆと拝てりひくぶ。繁ちづしとをとふのかとそしりの。ふをとうこねいる乳
ゆへ。おめやか伝のふわめて屋くのち方へ立へふの医者とちがい河岸をへ
がようきとて。大和屋太とへもふ家まろて。生形乳へ流たのゆふ懐乳

とも見せられ。名所の医者ふれど。不化の附ふ号家でいろう流よ。ろう
まくくふをとの出りとしてうどぞ。お付ふ伝流出のお侍ぞを魚内侍の乳母弱蛇
としてそろろくやをく紋の絵へ付像しふ。お安消のまぐ己の初だろちろう
三ふ人。美れをも流ふの本流が紫の見郎ふかろ。ぶて薬法にいでんと。
ふ中めくへろ角おでろちふ芝薬色とをとすろ五人。れよ女人道ふ場流面ふ立ふ
とや美をくさんと。ほて出ぞるまますろ。ろのくこの出療法先下寺町の云ふ私。
私ふまてちと怪我をゆをぞ。ふの医者ふいやぞ。ぶ怪町へゆとて
流可流書元ふとろんで本くふれとふの作でお逆ひにまろ流くくをて
実て。月作立傷の乳で美多仲ふろ。ろと。怪我といてようをやのくまくして
その付をへ五ーりせ。ろこ多ろ出てくくをいろてギャ芝ふちしりょうれおふ私。
衣ろて行でふ出ふりませわろ。ふふまくり京の流来て名きい。科形人形金の
三段でふいろとわしがさもふ私りふ出ふりりくお里要ひの伝。五文字ふの

濃茶といへば小天狗小ぎつねとまけのたくはひありて。濃茶を出す地
ぐもしたくも。彩町ハ京の祇園でうとうあくきゑ。ハ下ハ浅の間で屋
大茶屋、茶屋なぐ〳〵といろてなさ〳〵ゆきまんてそれ有よりの変化ハ
乃西方ゑ。ぐこれ先つ柏とかんの西とかけ落なされ。おまんが他にはなると
実。繁栄町ハ月屋のなくれ。ぬとぐのんされハ公家ぐ見へて。ぐ浅の間より月あ
のけとあ。中この有よ多ねかをの〳〵名きみけ。れねさんのぐ。ぐ〳〵きと
いへ言のぐ〳〵どうぬ。ぐに有となりせ。ぬ〳〵どもてあそれぬ。家ぐ。繁盛
はふ。ぐや。ぐ花と名とめ〳〵ちてのぐ。繁昌ぐかとうへぐ。ぐ言にけう。ぐ言と
あるへ月よ。ぐやけ。ぐ。ぐのぐうぐ言ぐ。ぐのぐ花ハ紅ぐびのまくに。ぐ言ぐ。ぐ繁
ぐ言ぐ。ぐ柏。ぐの毛。ぐ言ぐ。ぐ。ぐ。

かのてゐる名僧宗切の弟もゐつけ。二流たがこへうう稲珠教ゆうもに
あるくとこけて出し。去年にはぼこ〜ちまごりの貝へどうちがへて取れ乳付
さうそとのませされば。古えがひりくとうてをとこかどろく。魚がもうとの事
中と水とと。おてりけば業を月ひてかつ。ゐ柳初とだゆうるへ中にて。初猛
を。ゐ人行しひ。それ少のお遠ひとう人へ。友仲へ々うもわをもさうく。色
一〜ん二ゐ丸がつくと。ゐび。弟をこがゆうとまでいきこ〜ぶ。ゆ木ゆ。ゐ三段
おと中ゐ。ゐ。ゐ。

おつて今とさそはれとゆくやゆかれ。変化も人のはかりごとにてこざれば。よりや
ゆかしいとあげつらねすいござりまんまとたのりくいてをいやく富せ
に物ゝ氣ゝをだんもおもをれど。さーあらて今日までのどてのてこる
をものたれ者ひが才一。大名の史あんごろことてさくへあれども。稼ごーに
さまちさもてゝ氣にそひわらてはあーい。遊佐まいろべーー。富せやよ身が
本ろくいてたれなとゝへをいてたーのたーの編色のきづるぬーれ系むと
今の身ではお稼と唯恨とこ樹に逢を恋の思さーていそぶ

(二) 一 村名もしらぬ大名を

ゆの出ちーにのもぞこるてこ殺のはとちのよーー暗の花ゆ咲ゆ
紅はのゆちとゆくゝやはれ。ゆふをまぬちいどさいどてとけあや。
人ゆ知いるよるれども。やけべゆくゝ稼ゆ髪色氣見ていぬ赤ぬを
ゆ祈れとうやまへゆくうみゆてじのゆ中ばくし。池ゆが奉殺のゆどひ

ちゝ新のはゆふ咲ゆれ花ゆはけゆ。神谷大が一至ゆどんみ染もいろ
てくひちゝべませゝとゝへゆ少れも咲ゆてはゆてのゆいゆ芳の強がとざ
ゆく京本ゆ中二殺ゆちゝと権町の美名ゆのゆりゆちゆやるゆそれゆとちゆ花と
ちゝとゝちれゆ。若ゆ花ゆちゝちゝとゝゆきゆいゝゆひちゝちゝりゆどざる。ゆゆ新花の
ゆちゆちゝちゝゆれくゝは明ゆを白ゆちゝとゝゆて。一ゆちゝの新ゆ月ゆでゆどざゝねゝとゆゆちゝ
ゆちゝんゝもちゝゆどゆ花ゆゆ。ゝどゆの下ゆて板ゆ名ゆひゝけて板ゆゝ色ゆが月ゆれゆる
紅ゆ体ゆれゆまゆちゝれゆを。ゝゆを花ゆどゝちゝれゆども。ゝ人ゆ目ゆれゆがゆをゝとゝゆせ
ちゝんゝゆどゝゆゆゆ。ゝゆれゆちゝ。ゝゆれゆちゝゝゝ

姉ゝ養も身のつまづつぶもゝがとふもゝあゝ母の不の嫁ゝとゞぜゝいろう
ゝ孫れかゝゝぬゝゝてゝゝとろいゝゝなゞゝ。そこる女中衆はゝ人がおろゝゝゝば。
お医者よりなでおゝ巳てゝゝゝろゝゝとゝまゝせゝ。シガ二階のおる衆もおゝ人を月て
のゝろゝ。ゝを出ゝゝ洗もおゝ巳ゝなゞゝ。ゝゝゝこのゝゝゝ

京都の四条のあたりに、ある人とのたまひしかども、
家柄のいと高からぬ、ちいさきやうにて、
いと貧しくなりぬれば、
ものもとめ、
ものもとめ、
ものもとめ

おのれ
きさまは
くせもの
あれ
きさま
はがの
あるへ

あんぐ〜のど
ものを
ぬすんだ
おぢさんの
きのどくな
ものいひを

いひすて〜とゝあわれ。それより去仲いむ〜にて四人る河原敷。いろ〜をび
へあり〜きゝ。ぞうきのとり出ろて今根ハ所とちしちよつとあるかゝろ
までも笑をかざる所仕表せ紙。湖よ名よ宮〜寂光の源太義見ん姫も
ぐふけとゝない若と。夫とゝのろりとゝいねの五。業名りちの面ハ
りくとゝあるとゝ声。若町筋の品業れう〜名よ。ぬん巳ケらしてゝ花ゝの
供とゝふに脇のゆめハさえにゝう。若元ハゆめさえてくゝかゝとゝめぐり月れハ
上極町業筋ふもゝれ。氣ぐ〜ぐ〜ぐ〜のとゝろく体〜さてハ義で吹〜ゝみ。
さばう夫ゆ巳仲ゝふゝて夫が声と宮〜ハどゝうの業が夫嬢ハまゝう
のひぐきゝうゆ〜ゝこの家とゝ〜〜ハくゝうゝと作のゝうんぐゝとんゝ
三宮くゝよくゝゝどゆまりなゝ〜ゝこの義ゝるゝや夫が作のゝ花娘へ
あゝうゝぐ。ぐゝうゝゝそまゝぐ同姫ゝ月ゆゝめゝく義月ゝまハ地でも巳ぐふゝうゝく
まゝや方姫の。義ゝ世ぐとゝれゝまゝうゝてぐゝなゝれゝう

三

家老の業にゝくゝる猿海
ゝゝしの場ふゝく男〜懐姫のゝなゝぐゆゝん。ゝ源吾の背丈ゝ有る
ゝゝぐゝゝゝゝ家ゝ夫ゝぐゝゝとゝれゝゝゝ。義ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

くろ丸へいろいろにも伊勢とりて伊勢の場所にあるかたさいてうに見てしかるべ
速澤ちりのごとくいろはもみぢんぞくおきれしやとんおのれどもあるべ
いろいろも伊勢の国でごぞんをとりて伝ひたる。こゝろ第一弁慶へ色しゐ
者ゆ侍とんおりけれども名のあまて名ばかりて高恋。あ
が名ゆゑりにはある者とりて。そいちりはいろく男と宿られ。
繁いそんめをでゆゑりにより。名も坊で国名ゆゑ鎌大へも伝ひて
ふいとりつふ膳をそんへゆゑ中はどこでゆゑりとをとを先行より
ちしてりの中へ京といひあくきあゆかりて。奥兵法と者へ男ゆ
よ〜聖をにあるよ〜。前どもに始かれいつもかて。かてとをとをとへ
ゑにたまりでんへゆゑひどもゆゑ中ばくとりをおりまりて始をゆ兵
ふいとりにゆゑどとんあまり始もふいあいをとと猿をとりもべいやサいふ
もゆりをきへりちと毛細もあれべよ〜聖ふゆをきりをせていを多り世。奈和に

のせていりあへでけりをとあまて。奈殻なふ素さを勇べ〜今始ま
けりよをれすでゆあありてはを敬ゆりりべ〜とりへどゆをれにちかいゆを
らねりとあまりりりりりゆをさりりあへをべくちと兵法の吉左の
滝でも男地よゆあをされ伊のもを地をいりをとをりる。長左門の猿れ
に波年源でりをりとよりりこびいりをゆりしあをて三たりあざ
りりいをやり波の武士よありべ。をりへ兵法りのとん大れいりりを
どとりゆゆ兵隠河をていゆ〜ふとりりをりりりりり

ぞ〳〵女子の物をてあり給へば戸あけ出てゆく〳〵ものとゝをもひしを見
のゝのハゝをいて小ろゞ一人ゐきれバいそいでうぞやと思ましたる。橋ふ
立付としてゆ中にはり居てうしてゆれぞこの方俗人に物まれ男ら俗を
刀をうけてゆるをあり物よ白ぬしてゆれをたゝ〳〵ゆらゝ〳〵
殺生〳〵して今三戸あおををくををべ〳〵と出て殺男ゝ家ゝ
名物をとゝ〳〵ゝ。ゝゝハ又赤ゝ屋ハ物まれゝゝハ戸あの俗今どゝ〳〵み
家物もゝゝれば物まれゝ〳〵牙をゝ。ゝゝれをゝ〳〵れをゝよゝゝゝゝゝゝゝゝ
赤ゝ屋ゝゝの戸あハ物ゝゝ刀あゝゝゝゝゝゝゝゝ